

# e-dream-s 通信

e-dream-s ホームページ <http://www.e-dream-s.org>

教育用フォトアーカイブ @aglance <http://www.e-dream-s.org/aglance/>

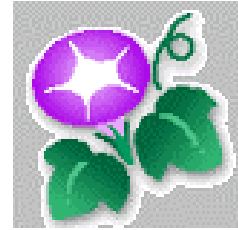
No.25 発行：2002年7月14日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

## 第8回理事会 in 鳴門 特集号



6月29日、30日、第8回理事会を開催しました。場所は徳島県鳴門市です。11名の理事、顧問、および各プロジェクトの担当者の合計16名の参加で、2日にわたって討議を行いました。今月号は「理事会特集号」として、参加者からの報告や感想を特集しました。e-dream-sの会員が一同に集まる8月23日の定時総会に向けて、さらなる準備を進めていきましょう。

(e-dream-s ホームページにも理事会の報告ページを掲載しています。是非、ご覧ください。)



1. ゲームの目的 辻荘一 p1
2. 毎日 井川好二 p3
3. 鳴門を新たな出発点に 中川房代 p5
4. 第8回理事会に参加して  
阿部武司 p7 志村洋子 p8 道面和枝 p9  
辰巳ゆきえ p10 田辺恵美 p10 山本貴子 p11  
藪友香子 p12 塚本美紀 p13 小関静枝 p13
5. e-dream-s 国際部より マレーシア・シンガポール研修  
いよいよおおづめ 山田昌子 p13
6. カメルーン学習会報告 飯田佐恵 p15
7. 第4回定時総会のお知らせ p18

## ゲームの目的

辻 荘 一

e-dream-s も3年目を迎えようとしている。e-dream-s は、教師の資質向上を目的とするアクロスとは違い、教員研修という枠をはずしてより広い意味で教育による社会貢献を目指すものとして始まった。教員自主研修組織 ACROSS から e-dream-s という NPO 法人へと形は変わっても、25年以上にわたる教員研修組織を運営し発展させてきた経験は、大いに役に立つはずだった。

もちろん、ACROSS なしには e-dream-s はあり得なかったし、その経験は大いに役に立っている。しかし、ACROSS としての長年の経験は e-dream-s という NPO をどうしても教員自主研修組織としての枠組みで捉えてしまう傾向を生んだ。つまり会員個人の成長とか教育という側面に目がいきすぎていた嫌いがある。ACROSS では教師としての成長が第一の目標だったが、e-dream-s において、それはあくまで二次的なものである。e-dream-s の第一の目標は、社会貢献を目的とした事業の成功、発展である。もちろん e-dream-s 会員としての活動を通じての個人の成長は望ましいことであるが、それは目標ではない。つまり、ACROSS と e-dream-s ではゲームの目的が違うのである。

では、事業の成功不成功はどう判断するのか。それは、財政的に健全な運営がなされたかということと、事業内容が e-dream-s の目的に合致し有効であったかどうか、基本的にはこの二つである。会員はこの二つのポイントのいずれか、あるいは両方に貢献することが求められる。当然理事であれば一般会員以上の貢献が求められるであろう。

まず、財政分野では会費の納入が最低ラインとなる。望ましくは、会員の増加に貢献する、助成してくれる企業・団体・個人を見つけることができれば、さらによい。

事業内容については、貢献の仕方は多岐にわたる。例えば ACROSS から請け負っている夏の研修における貢献、@aglance なら画像数増加への貢献、広報活動への貢献、あるいは具体的に活動をしなくとも e-dream-s や@aglance へ有益な提言をする、アイデアを出す。あるいは事務作業への貢献でも良い。

つまり、e-dream-s の会員の定義とは e-dream-s の趣旨に賛同し、e-dream-s に貢献しようとするもの、ということになる。三年目を迎えて、e-dream-s が NPO として社会に対してどんな貢献ができたのか、今後何ができるのかを今一度検証しなければならない。また、e-dream-s 会員ひとりひとりが、自分の e-dream-s への貢献が何であったか、また今後どんな貢献ができるのかを考えなければならない時期に来ているとあって良いだろう。

e-dream-s.come.true

## 「サービス業」としての NPO : 鳴門理事会に寄せて

井川好二

朝早くから仕事に出かけ、夜遅く家に帰って風呂に入り、ただぼんやりとテレビを観ながら食事をして寝るだけと云う生活を、毎日繰り返しているのも、とても仕事以外で他人様の役に立つようなことをやっている暇も余裕もないのです、などと真顔で云うのは、嘘に決まっている。

そういう生活を続けているからこそ、だからこそ、自分が生きている証が欲しいと思うのであり、こんな自分でも、少しは社会の役にだっていたいのが、社会的動物としての人間の本能なのであり、現代人の孤独はそれほど深いのである。

定年退職して、暇が出来たら是非やりたいと思っていますなどと云うのも、大嘘の皮であり、定年退職して仕事に時間を取られることがなくなっても、なにやかやと時間は潰れていくもので、なかなか暇になんかなりはしないし、例え、ほんとに暇になっても、その暇な自分が、その時、社会貢献に眼を向けるかどうか、甚だ疑問と云う他はない。

やる気になれば、その日から、寝る時間や風呂に入る時間を半分に削っても、たとえ給料の三分の一を寄付することになっても、やるのが、社会貢献である。なぜなら、貢献へのニーズはそれほど切迫しているのであり、また、社会に役立つことができるとうのは、本能に繋がる快感だからである。

しかし、個人の社会貢献が現実に成り立つためには、一定の条件が必要である。仕事以外で自分に出来ることあるのか？それは社会でどのように役に立つのか？役に立てる場合は、どこにあるのか？

そこには、常に、「ミスマッチ」の不安が付きまとう。自分の能力の使い道が見つからない。自分がやりたいことと、社会が求めていることのギャップ。社会が大きく変化し、自分が歳をとればとるほど、「ミスマッチ」の可能性が高まり、この不安や現実のために、人はなかなか社会貢献に踏み切れない。

こうした人々に社会貢献の場を提供するのが、NPO である。こういうことが出来る人が今必要です。その能力を、このように社会に役立てます、と具体的な、社会貢献の形を示して受け入れるのが、NPO の仕事であり、社会に対するサービスである。NPO は、そういう意味でも、「サービス産業」なのである。むろん、数多くある NPO の中からどれを選ぶかは市民の選択であり、選ばれやすくするのが、NPO の務めではある。

それでは、こうした「サービス業」としての NPO 法人の、理事としての社会貢献とは、何だろう？

蓋し、NPO 法人の理事は、名誉職である。つまり、「他に本業をもつことができ、生活費としての俸給を受けない公職」（三省堂 『ハイブリッド新辞林』）。そして、こうした名誉職に選ばれたものは、その公職としての職責を十二分に果たすことは無論であるが、それは現代日本社会における「ノーブレスオブリージュ」であると自覚する必要がある。

「ノーブレスオブリージュ」とは、つまり、「【(フ) noblesse oblige】高い地位や身分に伴う義務。ヨーロッパ社会で、貴族など高い身分の者にはそれに相応した重い責任・義務があるとする考え方」（三省堂 『ハイブリッド新辞林』）

「サービス業」としての NPO の理事は、人々に社会的貢献の場を提供し、その貢献の方向

性を舵取ることが職務であり、その公職制に付属したノーブレスオブリージュを全うすることが、義務である。

霧雨の彼方に、渦潮に架ける橋が、ぼんやり見えてくる。第八回 e-dream-s 理事会会場、鳴門市は、その橋の向こうである。(Saturday, July 13, 2002)

## 「鳴門を新たな出発点に」—理事会報告に代えて—

中 川 房 代

急に新聞が厚くなった。……どうしてだろう？ 「決算公告」??

そうだ！……6月末は株主総会のシーズン。3月期決算の企業は6月末までに株主総会を開くことになっているんだっけ、と納得する。

私自身は株主ではないが、今年の株主総会には興味を持った。「株主総会 IT 元年」(6/20 日経新聞夕刊)や「脱『シャンシャン』へ一歩」(6/28 朝日新聞朝刊)と言われ、従来とは株主総会のあり方が大きく変わろうとしているからだ。新聞によれば、今年の株主総会の特徴は3つにまとめられそうである。

- 1, インターネットによる議決権行使や電子メールでの招集通知送付  
(4月の商法改正によって可能に)
- 2, 付議される議案の多さ (商法改正で定款変更が必要なため)
- 3, 株主提案の増加 (株主提案権の行使、情報開示に關しての提案など)

社会の流れの中で、株主総会も閉鎖から公開へ、より民主的な手法をとるようになってきている。それは、経営者や企業の役割や責任に対する市民や社会の目が厳しくなっていることにも起因するのだろう。業績が悪ければ株価が下落するし、「不祥事」が起これば倒産の危機にも瀕する。

NPO を企業と同様に扱うことにはならないが、年々その存在が社会的影響力を増してきており、信用や責任の意味を考えていかなければいけないと感じる。

NPO 学会で活躍されている山内直人さん（大阪大学大学院教授）によると、

NPO には、もともと活動を客観的に評価する仕組みがない。しかも当事者は「良いことをしている」という自己満足に陥りがちである。こうしてみると、NPO にこそ評価が必要なのではないか。（6/13 日経新聞夕刊）

と。評価は必要である。

前置きが長くなった感があるが、そんな情勢の中、6月29日～30日に、e-dream-s の第8回理事会を開催した。理事、顧問、各プロジェクト担当者の計16名の参加で、2001度の事業総括・決算の承認、2002年度事業方針の方向性を討議し、可決した。総括、方針の詳細は8月の定時総会で報告することにして、ここでは1つだけ書くことにする。

上で書いた株主総会や NPO の評価とも関連するのだが、理事会では、e-dream-s のミッション（使命・目的）は何なのか、社会的な役割とは何か、各理事や会員は e-dream-s にどういう貢献をしていくのか、をテーマに論議を進めた。

3年目を迎え、これまで様々な事業やタスクに取り組み、成果も上げてきた。しかしその「成果」は外部から見たらどうなのだろう。「頑張った」とか「努力して自分が成長した」という視点と切り離して考えた時、NPO としての成果を考えた時、どういう評価が出るのだろう。やりたいことはたくさんある。しかし、今何に取り組みことが最優先されるべきなのか。何を事業とすることが e-dream-s の社会的な役割といえるのか。プロセスも大事だが、できあがった商品や結果はもっと重視しなければいけないのではないか。今やろうとしていることは事業として収支の合う企画なのかどうか。また、自分は e-dream-s の会員として、何をすることが e-dream-s のためになるのか、どう貢献しようとするのか。

考えることはたくさんある。

同時に、こういう論議ができるようになったのも、e-dream-s という組織が軌道に乗りつつあるからであり、新たな段階に踏み出した証拠である。

新聞や雑誌でも紹介され、日本国内はもちろん国際的にも知名度が増してきている中、企業や他団体とも競合できる企画力や商品力が問われる段階に入ってきていると感じる。組織やシステムも変えていくべきなのかもしれない。発想の転換も必要だ。

8月23日の定時総会成功に向け、議論を盛り上げていきたい。

## 理事会参加者のレポート集

参加者16名は、理事会の行われる徳島県鳴門市に、東京、北九州、広島、大阪、京都など、日本各地から集まってきました。参加者から寄せられた報告や感想を掲載します。

### 第8回 理事会に参加して

東京 阿部 武司

梅雨の只中、あの雨の降りしきる鳴門の理事会が終わって二週間になろうとしている。この間、二つの〈問い〉がいつも私の頭から離れない。しかも、それは時間が経てば経つほどいよいよ大きく重く、いまや口をパツクリと開けて私の前に立ちただかるようになってきた。

【その一】現に教育に携わっている者として、今日の、また明日の教育について明確な mission を主体的に自覚し、その遂行に当たって思いを同じくする者が集い、行動を共にする、それが e-dream-s だ。ならば、私はいま、そして今後、その主体的な一会員たり得るか？【その二】会員がますます増えるであろうこの e-dream-s にあって、これから一理事としてどのように主体的にこの mission に関わって行くか、いまその関わり方が問われている。

思えばこの二つの問いは結局は一つ。〈足下の教育に対してこの私自身が如何なる mission を自覚するか〉だ。即、それが私の活動のエネルギー源になり、タスクの内容や方向を決める。

何を今更、と言われるかもしれない。何故なら、それは、あるいは代表理事が、また副代表理事が、そして顧問が e-dream-s 発足以来、ことあるごとに口にしてきたことなのだから……。でも、やっぱり今更、なのだ。何故なら、今回の会議の全ての審議の行き着くところ結局はこの問いに各自が如何に答えるかに収斂していたのだから。

〈いまや遅疑逡巡を言っている時ではないな。最早、船は岸壁を離れた…。〉  
鳴門から東京までの長い長い帰り道、同じ問いを何度も何度も反芻し、そう思った。

(2002. 7. 13)

## 鳴門の理事会

東京 志村洋子

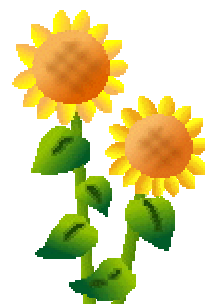
どこに何を、どうやって、どこまで。鳴門の理事会で、提案の内容、収入の目途、自分の体力、時間等、今までこんがらがっていたものが私には整理のついたことがある。いつもの大阪でないのが良かったかもしれない。

日ごろ辻先生のメールにほとんど萎縮している私は、自分をさらけ出す機会にしようなどとも思った。そうしてチラシをつくった。幼稚この上ない出来だがこれが私の現実だ。考える作業を楽しんだ。写真活用は教科が限られるとは思わない。もう少しだけ時間を貰って作ろうとしている。いろいろなところの先生が気軽にここから写真を使えるといい。使うのが当たりまえになるといい。

「イー・ドリームズのホームページ見ました。僕はモンゴルの国道2号線に行きたいです。モンゴルといえばやはり遊牧民なのであの大自然の中で彼等とも触れ合ってみたいです。日本ではまず見られない光景なのであの写真が見れて良かったです。あーゆー場所が本当にあるんだなあと思いました。」

これは家に帰ると届いていた前の生徒からのメール、通っている専門学校のパソコンから送られてきた。ほかの生徒や先生もそのうち見てくれるだろう。

鳴門の理事会は、発想と、知識、技術そして行動ということを私にわかりやすくさせてくれた。実は億劫だった鳴門だが、7時間あれば行けると突き止めたとき理事会が身近になった。瀬戸内海を列車で渡ろうと思った。そしてこの海上のレールは関門トンネルや青函トンネルと違い周囲に景色が付いていたのが発見だった。技術あつての発想か、発想あつての技術か。思わずレールの上で発想から実現までのことを考えた。





## e-dream-s 理事会に参加して ～全体を見て動くこと～

広島 道面 和枝

今自分が行っていることは、全体の中ではどのような位置づけであるのかを常に意識して考え行動すること・・・今回理事会に参加させていただいて、もっとも身につまされて学んだことです。

理事会では、写真アーカイブ@aglance を利用した授業実践例のまとめを報告しました。@aglance の掲示板に書き込まれた実践例を、形式を整え考察を加えてまとめたのですが、結果的に「英語教育」という狭い視点しか持つことができませんでした。2002年度事業計画として出した提案も、現在与えられたタスクにかかわることのみで、e-dream-s の活動を将来さまざまな方面に広げて行こうという、全体的な視点に立ったものではありませんでした。（それらを自分でモニターできないところが、自分の課題です。）

しかしながら、いろいろな先生方の事業計画案と、それらに対するコメントを聞いているうちに、「e-dream-s の将来的発展のために、どんなことができるだろうか」ということについて、財政的なことや会員外の個人・団体とつながるためのアイデアなど、ふだんから少しずつ考えるようにはなりました（バカバカしいものから、実現可能な、と思われるものまで）。

たちまち、総合的な学習（「地場産業を学ぶ」）を通してつながりのできた地元の企業に、e-dream-s の宣伝をしに行くこと、自分の属している「情報教育部会」で他教科の先生方に@aglance と授業実践例を紹介することなど、できそうなところから動いていこうと思います。



## 理事会に参加して

大阪 辰己ゆきえ

近頃、広報の仕事などを通して、e-dream-s や@aglance について、団体外の人々に説明する機会が増えたが、e-dream-s の活動に興味を持ち始めて1年もたない新参者にとって、この団体について、正直理解していないところもある。

今回、この理事会には顧問や理事、また私を含め一般会員が全国から集まった。それぞれの活動報告はもとより、皆が持てる力で、今後どのような活動ができるか、アイデアを出し合い、どのように e-dream-s に「貢献」するのか考えた。そこに後ろ向きな何かを見ることはできなかった。

私は e-dream-s の会員として、皆さんとともにその目標を共有し、自分のライフワークとして「持てる力」の限界に挑戦したい。

e-dream-s は複数形でよかった。私たちの団体をうまく表現していると今更ながらではあるが、理事会に参加して思った。

## 仕事と家庭と e-dream-s

大阪 田辺恵美

仕事は毎日きちんとがんばる。家に帰ったら美味しい料理づくりに励む。それなりに忙しいし、充実しているが、それだけだと満足できない。日常化された仕事や家事の繰り返し

を何日か続けていると、どっぴりと埋もれてしまいそうになる。そして、ふと外の空気に触れてみたい、と思うようになる。それなら、どこかへ遊びに行けばいいじゃない、と言われるかもしれないが、そういうものとはまた違う。

今回の理事会は、私にとって、そういう私の願いと e-dream-s との関係が見えてくるきっかけとなった。私は、社会（外の世界）と常に関わっていきたい、できれば、少しでも社会に貢献したい。じゃあ、e-dream-s の理事として、e-dream-s の活動に参加することが、そうすることになるではないか・・・と。仕事と家庭と e-dream-s、これからも自分のできる限り、がんばってみようと思う。

## 「後ろ向きではダメ。前向きに。」

広島 山本貴子

第8回理事会に参加したことは、これからの私にとって、とても大きい、と思う。私は、弱い人間だから、追い込まれなければ動けない、本気になれない。「なんて情けない奴だ。」と思われるかもしれないが、そうなのだ。6月29・30に鳴門で理事会が行われるという案内を中川先生からメールでもらったときは、逃げ腰という言葉そのものだった。

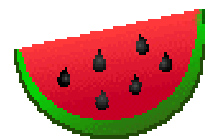
理事として、仕事をしていない自分を分かっていたので、どんな顔をして皆さんに会えばいいの？と後ろめたい気持ちだった。しかし、「参加することからまた、始めましょう。」という中川先生のあたたかいメールに心動かされ、「行ってみよう。」という気になった。

おいしいお酒と料理、楽しいカラオケがおまけに必ずついてくるイー・ドリームズやアクロスの会。だが、きちんと自分のタスクをやり企画書を提出できることが当たり前前の姿。わたしは、企画書だけでも、とにかく持って行かなければ・・・と焦っていた。(発表した結果は、みなさんから笑いがでるような、そんな中味でした)

皆さんの意見を聞き、話すときの意気込みや表情を見て、「あー、こういう場に参加できることは、幸せなことなんだなあ。」と改めて思った。

大切なのは、理事としてこれからどう動いていくのか。e-dream-s をこうしたい！という情熱とアイデアがもてるかどうか。そして、会員を増やせるのか。

課題は大きいけど、「年をとっても、生き生き夢をもっていられる。」ということは確信している。だから、今日もきちんとHPを見ることから、まずはやっぴいこう。



## 第8回理事会に参加して

大阪 藪 友香子

6月29日～30日の週末、e-dream-sの理事会が鳴門のホテルで開かれた。期末テスト直前の多忙を極める時期であるにもかかわらず、理事でもなくe-dream-sの活動に大した貢献もしていない私が参加を決めたのは会場のホテルが魅力的だったからである。

そのホテル、「モアナコースト」はメゾネット形式と呼ばれるマンションのような作りで、建物の屋上部分も部屋ごとに仕切られそれぞれにジャグジーが備えつけられている。「ジャグジーに入って、リラックスしたい」というのが、私の場合、参加の大きな理由だったのだが、各部屋に一つあるとは思っていなかった。涼しい夜風に当たりながらつかり、久しぶりに露天風呂気分を味わうことができた。部屋にはベッドが3つ、中央のテーブルに同室の3人ですわり、お茶を飲んでいると、たった1泊といえどもどこか異境の地で寮生活をしているような気になる。ロビーもレストランも南欧風な雰囲気にしつらえてあるが、それが徳島の風土に合っているのか、鳴門の町と飛び離れた異空間という感じは全くしなかった。

29日に突然の補習が入り、ホテル到着は8:00を過ぎることになったのだが、理事会の方々はまだ食事中で、暖かく迎えてくださり、夜遅くまでカラオケをして楽しむことができた。

翌日の理事会に参加して、@aglanceをよりよいものにするためのみなさんの計画を聞き、その意欲に敬服するとともに、e-dream-sの将来がさらに楽しみになってきた。日に日に新しい素敵な写真が増え、見ているだけで外国へ行ったような楽しい気分になったり、「この写真はあのlessonで使えるかも」などと授業計画が浮かんで来たりする。余裕のない私は何もできていないが、@aglanceがここまで育ってきたのは理事の方々をはじめ会員の貢献の賜であり、これからの発展も我々の創意工夫と努力にかかっていることを実感させられた。遊びっぽい気分が抜けない部分参加であったが、気分転換と同時に襟を正される思いをした2日間であった。

## 理事会に参加して

北九州 塚本美紀

なかなか皆さんと顔をあわす機会のない私にとって、今回皆さんと、昨年度の活動を振り返り、今年度の方針について語りあったことは、これからの e-dream-s はどうあるべきか、ここで自分に何ができるのか、そんなことを考える貴重な機会を与えてくれました。通信手段の発達した今だからこそ、こうやって顔をあわせて話をする、一緒に美味しいものを食べる、笑いあうこと、そんなことがいかに大切であるかということを感じました。帰りの新幹線の窓から、瀬戸内海の家や空や雲を見ながら「私の mission とは？」と考えながら小倉に戻りました。自分が e-dream-s のメンバーであること、自分の mission がここにあること、そして「仲間」がここにいること、そんなことを再認識した理事会でした。

e-dream-s は何をめざすのか。自分は e-dream-s で何をやりたいのか。そんなことを考えさせられました。与えられたことをこなすのに精一杯な現在で、なかなかそれもおぼつかないのですが自分で動いていく楽しみを感じられるようになりたいです。

大阪 小関静枝

\*\*\*\*\*

### e-dream-s 国際部

"ACROSS 夏期セミナー2002 in マレーシア & シンガポール"

依託事業もいよいよ大づめ！

\*\*\*\*\*

山 田 昌 子

「シンガポールにツテができたから、今度の夏期セミナーにシンガポールはどうですか？」と井川顧問、辻代表理事に話をしたのは、今年のちょうど今頃だったように思う。折も折り、9月11日のテロ事件があり、イスラム教やその文化に目を向けなければいけないという世界情勢も手伝って、マレーシア・シンガポールへの夏期セミナーが決定した。e-dream-s 国際部でそのセミナー企画・実施の依頼を受け、12月の下見、3月のプライベート旅行（下見を兼ねて）、5月の勤務校の下見を経て、今に至る。7月に入り、少しずつ形が見えてきた。

ACROSS のアジアツアーで、海外との交渉はなかなかスムーズに行かないという経験をしているものの、私の少ない経験からではあるが、今回が最も大変だったように思う。最も苦労したのは、ペナンとの交渉だった。学校訪問は、各学校が OK をしても、教育委員会の許可がなければ実施できない。4月から ACROSS 会長の訪問依頼状を送っているものの、返事が来ない。仕方なく国際電話をかけるが、担当の Aliasa 氏が出張でいない。なんとかつかまえ「学校訪問は、ノープロブレム」というお言葉をいただいた（ヤッタ！）。が、それからまた10日たっても何も音沙汰がない。またまた国際電話をかけるが、またまた Aliasa 氏は出張でいない。出て来た Khalid 氏に話をした。ところがどっこい、翌日に e-メールで「学校訪問は無理」という連絡をいただいた。えっ、話が違うやん、e-dream-s 国際部に緊張感が走った。

そこで救世主登場。それは、コンタクトパーソン（タクシー運転手）の Athzelee 氏だった。彼は e-メールもファックスもないので、連絡は国際電話ということになる。彼が帰宅した時間午後10時頃（日本時間11時）を見計らって電話をする。彼の家族も日本女性から始終電話がかかってくるのに閉口したことだろう。にもかかわらず、Athzelee 氏は、いつも「折角日本から研修に来るんだからなんとかするよ！」と笑顔で（電話でそれが感じられるのはやはり彼の人柄だろう）答えてくれた。何度も教育委員会に出向き、Aliasa 氏をつかまえ、話を聞き出してくれた。Khalid 氏の e-メールの真相は、こうだった：私達の訪問希望校のひとつ、Sekolah Abdullah Munshi が受け入れは無理と言ったことから、学校訪問すべて無理と Khalid 氏が判断した。Khalid 氏は、Athzelee 氏が懇意にしている Aliasa 氏の上司にあたるのだと言う。万事休す・・・か？！

「ねえ、Athzelee、他の学校はどうなん？少なくとも春に辰己さんが e-メールで連絡をとった Penang Free School は OK のようだし、各学校に尋ねてくれない？各学校が OK やったら教育委員会も許可を出さないとあかんのと違う？」

翌週、Athzelee氏は、St George's Girl School、Penang Free School、Convent Light Streetを訪れて校長と話をしてくれた。それぞれ我々の訪問の可能性がでてくると、次は教育委員会で Aliasa氏と話してくれた。国際部としても、各学校に電話やファックスにて連絡をとり、その可能性を確認した。Aliasa氏のアドバイスを受け、Athzelee氏（の弟）に「3校から訪問可能と連絡をもらっている」という主旨のファックスを送り、Athzelee氏はそれを持って、再度教育委員会に交渉に行ってくれた。Khalid氏は、一度出した不許可を覆してくれるのか・・・国際部は固唾を飲んで待った。

私は、恥ずかしながら、日本なら、少なくとも京都の教育委員会やったら、きっと無理やろうなあ・・・、とネガティブな気分にもなった。が、実際は違っていた。Convent Light Streetからのe-メールを読んでいると、Khalid氏自らが各校に電話をして許可を伝えたらしかった。へえー、マレー人って、問題が起こった時どんな対処をするかを大切にしている民族やって、どっかで読んだことがあるけど、面子とかよりも実質をとることで対処するんや。それに、勿論のことながら、Athzelee氏の陰の功績も大きい。タクシー運転手がこれだけ私たちのセミナーを支えてくれたということもかつてないのではないだろうか。私はますますマレーシアに興味を持った。

国際部に教育委員会からの許可書が送付されてくることはないらしいが、現在、各校と8月5日の学校訪問にむけて調整が進められている。既にこのプロジェクトは国際部から手が離れ、各校のコンタクトティーチャーと訪問グループがe-メールで話をし始めている。つまり、Penang Free Schoolは担当の辰己さんと、Convent Light Streetは担当の岡田さんとe-メールが行き来している。St George's Girl Schoolは校長の出張の関係で少しばかり遅れているが、近いうちに担当の稲川さんとe-メールのやり取りがなされるに違いない。夏期セミナーの計画は、着実に進んでいる。夏期セミナーまであと半月。観光では見られないマレーシアやシンガポールをもっと見たい。楽しみだ。

## 【カメルーン学習会報告】

飯 田 佐 恵

日時：2002年6月14日（金） 19：40～20：40

場所：テンプル大学 大阪校 （土佐堀 YMCA 8F）

講師：Mr. Pascal Dejoli Mbogning

テーマ：「カメルーンの概要と教育」

この学習会は講師のパascalさんのたつてのご要望でテンプル大学井川講座の半分を当てて、テンプル大学と e-dream-s 国際部の協賛で実施されました。

パascalさんは5月のSAVVYで「マレーシアについて」語られたラシデイさん (Mr.Rashidi) と同じく関西国際センターで研修中の外交官です。時はワールドカップ2002のまただ中で、カメルーン・チームの来日の大幅な遅れが大ニュースとなり、日本中の多くの人がカメルーンに興味をもちました。私はといえば、カメルーンはアフリカの一国だというだけでどこにあるかも知りませんでした。そして、カメルーン・チームの予選試合を一緒にテレビ観戦していた従弟から「シドニー・オリンピックのサッカー優勝国やで。」と教えられて「へえ、そんなに強くて有名だったんだ。」と少し関心を持ち始めたときでした。

学習会に参加するには、せめてもカメルーン国のある場所ぐらい知っていなくてはいけません、インターネットで位置を探しました。パascalさんがパワーポイントを使って見せてくださったカメルーン的首都のヤウンデ(Yaounde)は私も同じ写真をインターネット上で見ていたのでうれしくなりました。





パスカルさんはカメルーンの地理、歴史、経済から、多民族国家がもつ文化的、宗教的、教育的事情、言語上の問題点について語られるおつもりでしたが、時間が足りずに急いで、はしょって終わることになってしまったのは本当に残念なことでした。

そんな中でもカメルーンについて知ったことを挙げてみます。

1. 地理的、気候的に草原地帯、高地、大西洋沿岸地帯、熱帯雨林地帯に分かれている。
2. 民族学上、約200の人種が住んでいるが、文化的（言語上）に主たる5地域に分けてある。そして公用語としてフランス語と英語がある。イスラム人は北部からやってきてそのまま多くがそこに住んでいる。

パスカルさんは東部のバカ族（Baka）の出身らしい。日本語を学習しているパスカルさんはBakaが音的にバカ、馬鹿に通ずるのを知っているので自分の出身地を日本人に教えるのを恥ずかしそうにしていた。パスカルさんとはそんな純朴で穏和な方だった。

3. 東南アジアと同じくポルトガル人が最初に大西洋沿岸に来て貿易を始めた。その後、内陸はドイツ・イギリス・フランスの植民地とされていった。
4. 経済上の問題点はカメルーンは一次産品（農産物、石油、鉱山資源、林木）を輸出して日常消費のための品目を輸入していること。地理的・気候的事情から生産物の工業化が難しいのだろうか。

#### 5. 教育について

- ・就学前教育は3歳から。
- ・Primary School -->
- ・Secondary School (grammar school と technical school の2コースあり) -->
- ・University (Faculties と Job Training School の2コースあり)
- ・義務教育就学率は4/5で、アフリカにおける教育的に最も優れた国の1つに入っている。

#### 6. 教育上再考されるべき点として

- ・教育制度実施計画等が地域によって異なるため優秀な人材を有効利用できていない
- ・医者などの資格を取得しても国内でその職につくことができない。5000人が医者希望で勉強しても実際には80人位しか医者になっていないようだ。そんな現実がますます資格を取ったり、訓練を受けようとする意欲を減退させている。
- ・パソコンなどの設備がまだまだ不足。
- ・私立の大学が皆無で私立の教育機関が稀少。パスカルさんはご自分で高等学校を設

立したいという強い思いを抱いておられる。

7・多民族国家であるカメルーン国の言語について

- ・公用語であるフランス語と英語と民族としての言語を使うバランス。
- ・地方言語をどうあつかうか。
- ・カメルーン国の国語は？

日本から飛行機を乗り継いで30時間もかかってたどりつく遠い国、カメルーンについての話だったが、いつも笑顔で熱弁をふるわれたパスカルさんによって、カメルーンは私にとって気になる国の一つになりました。そして僅かながらも多民族国家、多文化社会のもつ難題、悩み、苦しみを実感しました。

今後、パスカルさんは外交官としてどちらの国へ派遣されるのでしょうか。日本でお仕事をされることになり、再びお会いできることを願ってやみません。

## <e-dream-s 第4回定時総会のお知らせ>

日時：8月23日（金）18：00-21：00

会場：ホリディ・イン エクスプレス 大阪うつぼパーク  
（大阪市西区靱本町 2-2-20）

議案：1,2001年度事業報告承認の件  
2,2001年度収支決算承認の件  
3,（報告事項）2002年度事業計画及び予算について

18：00より定時会員総会、引き続いてパーティ形式の食事会を行います。

\*定時総会の案内、及び委任状は、7月21日に発送します。